

令和元年度分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和元年度分について、輸出額は「自動車の部分品」などが減少したことから、対前年度比3.4%の減少となった。また、輸入額は「液化天然ガス」、「アルミニウム及び同合金」などが減少したことから、同8.6%の減少となった。

その結果、差引額は7兆1,907億円（同0.5%の増加）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年度比による

また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

○総額

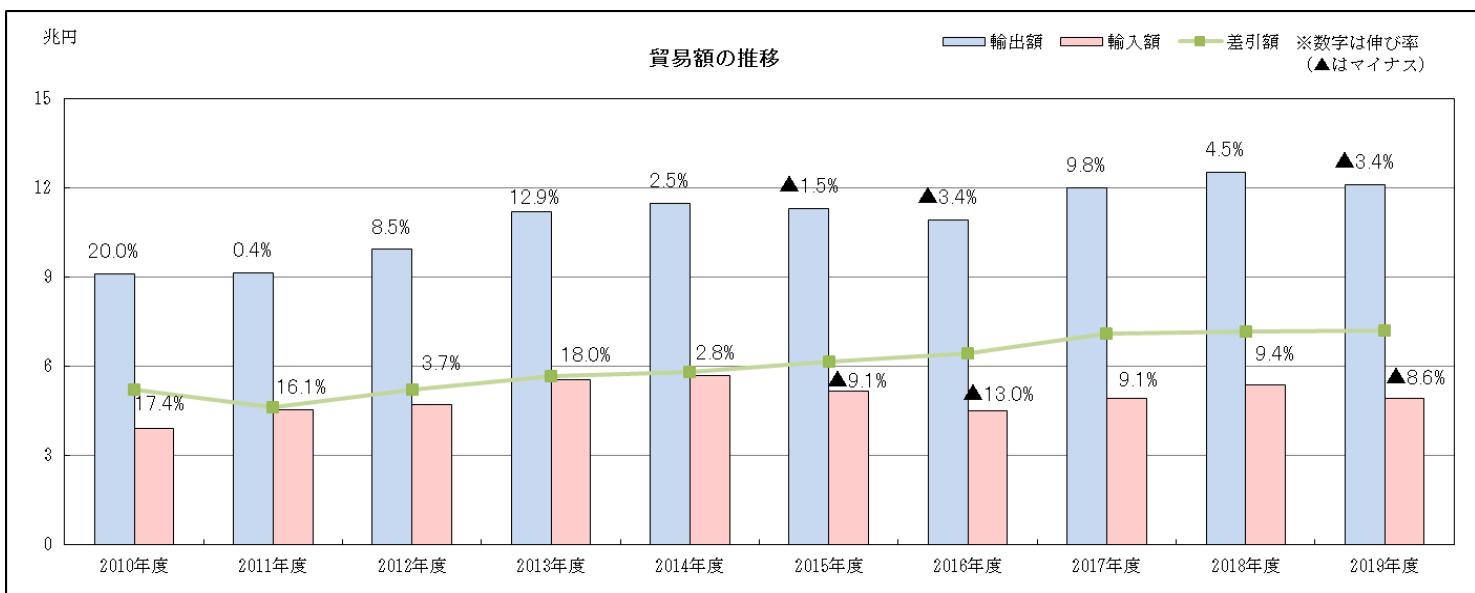
区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	12兆0,960億円	▲3.4%	4兆9,053億円	▲8.6%	★ 7兆1,907億円	+0.5%
	3年ぶりの減少		3年ぶりの減少		8年連続の増加	
管内（名港シェア）	18兆5,172億円 (65.3%)		9兆6,734億円 (50.7%)		8兆8,439億円 (81.3%)	
全国（名港シェア）	75兆8,800億円 (15.9%)		77兆1,713億円 (6.4%)		▲1兆2,912億円 (—)	

注) 名古屋港における輸出額は、平成23年度以降 9年連続 全国港別第1位（空港を含む）

注) 名古屋港における差引額は、平成10年度以降 22年連続 全国港別第1位（空港を含む）

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出減少(1)	自動車の部分品	2兆0,137億円	▲7.7%	▲1.3	5年ぶりの減少
輸入減少(1)	液化天然ガス	3,705億円	▲16.0%	▲1.3	3年ぶりの減少
輸入減少(2)	アルミニウム及び同合金	2,227億円	▲20.9%	▲1.1	3年ぶりの減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。